

2002年度（平成14年度）第2回理事会記録

日時：

2002年（平成14年）8月1日（木）15:00—17:00

場所：

学士会分館7号室

出席者：

廣川信隆（理事長）、井上芳郎、近藤尚武、高田邦昭、佐藤達夫、高野吉郎、山科正平、杉浦康夫、田中重徳、野条良彰、塩田浩平、河田光博、瀬口春道、猪口哲夫、村田長芳（以上理事）、内山安男（監事）依藤宏（幹事）小森雄一郎（学会事務センター）

欠席者：

仙波恵美子、村上宅郎（以上理事）、上田秀一（監事）

廣川理事長の挨拶が開会に先立ち行われた。

I. 議事録署名人の選任

野条良彰（福井医大）並びに塩田浩平（京都医大）の両理事が議事録署名人に選任された。

II. 前回会議記録の確認

2002年（平成14年）第1回理事会（2002年3月29日）記録（案）が確認された。

III. 報告事項

1. 2004年度科研費審査委員候補者選任に関わる解剖学研連への報告について
2002年4月15日最終的な「候補者リスト」を解剖学研連 平野委員長に提出したところ4月30日付で
 - a. 解剖学一般については細目に示す「解剖学一般1」と「解剖学一般2」に分類していないリストを追加作成し、提出すること。
 - b. 「キーワード」はできる限り埋めることの2点の要望が伝えられた。a. については、既提出の「解剖学一般1」「解剖学一般2」のリストをタスキ掛けにして作成し直したリストを用意し、b. については本人に照会する時間的余裕がなかったため、理事長の指示により庶務担当理事が記入を行い、5月1日追加提出を完了した。なお現研連委員である猪口庶務理事が4月の研連委員会において、「毎年このような混乱を生ずる経過となることがあってはならないと思う。研連委員長として善処をお願いしたい」旨、発言したことの報告があった。

2. 2002年度版会員名簿刊行について

2002年度版会員名簿の作成状況は当初の予定通り進行している旨、報告があった。

3. 「Anatomical Science International (ASI)」及び「解剖学雑誌」刊行について

ASIは順調に編集・刊行が行われ、Medlineへの掲載も従来の解剖学雑誌の継続ということで了解が得られた。ISI社のImpact Factor (IF) への掲載は実績が必要なので実績をつくった上で応募する予定である。電子ジャーナル化については出版社のBlackwellで既に作製・公開済みであり、学会員からはpasswordを使って閲覧できるようにする予定。またASI編集長より増頁、カラー表紙印刷のための追加予算要求が出されたが、少なくとも今年度は当初の予算に基づいて編集作業を行ってもらうことになった。

解剖学雑誌は現在77巻3号の準備中であり、これには第108回日本解剖学会総会・全国学術集会の案内及びイタリア解剖学会Pietro M.Motta教授の追悼文を掲載する予定である。

4. 学会ホームページについて

従来学会抄録を登録していたNII（国立情報学研究所）のデータベースが平成14年度で終了し、旧科技厅系のJSTに移行することになった。これに伴いNIIでの抄録閲覧が有料であったことによる収入年間約数10万円がなくなることになる。また今後、抄録データベースをインターネットでフル公開とするかどうかについて審議され、その結果フル公開とすることが了承された。

5. 第16回国際解剖学会準備状況報告

first circular及びポスターの図案を決める段階まで来ており、決定し次第印刷配布に移る予定である。

6. その他

i. 日本医学会の評議員、連絡委員の交代について

日本医学会には解剖学会からは廣川理事長が評議員として、猪口庶務担当理事が連絡委員として参加していたが、今回廣川理事長が幹事となったため新たに選び直す必要が生じた。評議員には猪口庶務担当理事が、連絡委員には河田企画・渉外担当理事があたることと諮られ、了承された。

ii. 第3回 アジア太平洋国際解剖学会議（APICA）収支決算報告

杉浦組織委員長より資料に基づき報告が行われた。

IV. 審議事項

1. 2003・2004年度（平成15・16年度）役員及び2005年度（平成17年度）科研費審査委員候補者選出スケジュールについて

資料に基づき審議された結果、原案の通り承認された。

2. 第108回 日本解剖学会総会・全国学術集会開催要綱について

第108回 日本解剖学会総会・全国学術集会開催要綱及び予算案が猪口会頭より呈示され、原案の通り承認された。開催要綱は学会ホームページ、9月発行の解剖学雑誌に掲載予定である。尚、内山監事より解剖学会からの補助金に関係して、総会・全国学

術集会の運営のノウハウについて考える余地があるのではないかと意見が出され、常務理事会における検討課題とすることになった。

3. 第108回（2003年（平成15年）度）総会及び学術評議員会について
従来「通常総会」と「学術評議員会」は全国学術集会時に開催されているが、両者は審議案件の重複により例年殆ど変わらない内容の議事が繰り返され、改革、工夫を望む声も出されている。そこで平成15年度解剖学会学術集会以降、両会議を同時開催とし、個々の審議時間に余裕を持たせるとともに両会議開催の形式的側面を取り除くことが提案された。尚、前例としては平成9～11年度の「後期総会」はいずれも同時開催方式であった。この件につき審議の結果、平成15年度以降の両会議の同時開催が承認された。
4. 第110回（2005年（平成17年）度）総会・全国学術集会開催校について
第110回 総会・全国学術集会開催校については学会ホームページ、解剖学雑誌において全国公募を行い、地域性その他を考慮の上、理事会で決定することが了承された。
5. 第109回（2004年（平成16年）度）総会開催方法について
国際解剖学会の開かれる2004年度には総会のみを4月に実施しても会員が集まらないことが予想され、国際解剖学会との同時開催が望まれる。この点につき文部科学省に問い合わせたところ、会計報告、事業報告は6月までに形の整ったものを提出し、8月の総会后、改訂版を出せば良いとのことである。以上から8月の国際解剖学会の際に解剖学会総会も実施することが了承された。
6. 「新・人体の不思議展」について
「読売テレビ」、「人体の不思議展監修委員会」、「アナトミ－研究所」主催「新・人体の不思議展」について主催者より医学会総会の事業の一環として解剖学会にも係わって欲しいとの要望が寄せられた。検討の結果、解剖学会としては直接係わることはせず静観すること、並びに積極的な意義を見出す解剖学者がボランティアとして協力するという形が最も適当であるとの結論に達した。
7. 各種懇話会活動について
解剖学会総会・全国学術集会の前日開催される各種懇話会は本来解剖学会を補完する存在であり、会の開催に当たっては会場は解剖学会で用意している。しかるに懇話会の中には参加者の一部から参加費を徴収しているものも存在し、このような場合、今後会場費については応分の負担を御願ひすることもありうるとの結論に達した。
8. 各種委員会活動の実情について
解剖学会には3つの常置委員会と7つの専門委員会が設置されているが、その活動状況は委員会の任務により差が見られる。この点につき匿名の投書があったが、委員会の任務は多様であり、当面は具体的仕事がなくともすぐに対処しなければならない問題が出る可能性や、委員に学会への参加意識を高める効用なども考えられる。従ってこの問題については継続審議とし、個々の委員会について結論を出すことは今回は控えるとされた。
9. その他
（財）井上科学振興財団よりの「第19回 井上学術賞」候補者推薦依頼及び（財）内藤記念科学振興財団よりの「第34回 内藤記念科学振興賞」候補者推薦依頼については学

会ホームページで8月1日を締切として募集を行っていたが、1件の応募もなく8月末を締切にして再募集を行う旨、通知された。